

## 論文テーマ

### 未来のものづくり人材 — 2050年の企業人材について —

## 論文の主旨

日本においては、バブル崩壊・デフレ経済の進行と厳しい経済状況が続いてきたことと共に、今後更に人口減少・高齢化に伴う生産年齢人口の減少も相まって、未来に向けてどうすれば良いか非常に心配になるところである。

そこで、現在進行中の未来への技術革新・社会情勢の変化の状況を検討し、2050年における日本のものづくりの絵姿を想定した。その中には、自動化・IT化はもちろん、少品種大量生産・多品種少量生産といった生産形態の違いによるものも考えて姿を描いた。

その姿を念頭に、日本のものづくりを支える人材にはどのような能力が必要となるかを考えた。現状の日本の企業においてはDXどころではなく、デジタル化さえも上手くいっていない企業が多くある中で、成果が出ている企業の例を挙げて、どのようなプロセス・人材の活用をしてきたかを示し、自社で必要となるデジタル人材の具体的な姿を現した。

そして最後に各企業において前述の能力を満たす未来に向けた人材育成をする際に何をすべきか、更にそのステップを明確化して、今後の人材育成に役立てていただく方策をまとめた。

## 発表者の紹介

|           |                                                                |
|-----------|----------------------------------------------------------------|
| 氏 名       | 鈴木 宏昌 主任コンサルタント 生産・業務改革コンサルティング事業部                             |
| 専門分野      | 製造業における生産設備・生産方式・現場管理・改善活動等、生産に関わることの改善指導                      |
| コンサルティング歴 | 大手自動車メーカーおよび関連会社への出向中に得た生産設備設計・工程設計・製造準備の経験を活かし、製造業を中心に改善指導活動中 |

|           |                                  |
|-----------|----------------------------------|
| 氏 名       | 高橋 拓也 コンサルタント 生産・業務改革コンサルティング事業部 |
| 専門分野      | 製造業における生産管理、品質管理、現場改善等の指導        |
| コンサルティング歴 | 上記分野のコンサルティングおよび研修等で多数の企業様の支援に従事 |